

中学生の

「税」についての作文

市税務課では、納税意識の高揚を目的に、次代を担う中学生を対象に「税についての作文」を募集しました。この中から最優秀賞である小松島市長賞を受賞された立江中学校3年の定國茉奈さんの作文を紹介します。

私の生活と税

立江中学校 三年

定國 茉奈



私は幸せだと思う。なぜかというところ、いろいろなことがあったけれど、この十五年間を無事に、生きることができていくからだ。

私がまだ小さかった頃は友達と一緒に近所の公園で遊んだり、きれいに舗装された道路や山道を祖母と歩いたりしていた。小学生の頃には、新しい教科書とノートと共に勉強したり、学校内を散策したりした。それと、図書館に行つて本を読んだりもした。そして、中学生になってから、もう早三年がたとうとしていく。こう振り返ってみると、いろいろなものや人たちに支えてもらっていたことが改めてわかった。感謝しきれないだろうけれど、ありがとう。

そんな日々の中のある一日に、税について学ぶことができた。徳島税務所の方が、私の学校に来てくださったのだ。その方から、税についてを聞くことができた。税の種類とその数、税の役割や使い道などを事細かに、わかりやすく教えてくださった。そしてその後、もし税がこの世界から

なくなつたらどうなるかという内容のビデオを見せてくださったのである。私はこれを見て、怖くなった。もしもの話だけれど、道も人の心もボロボロになっていっているのを見るのは、つらいものがあつたからだ。そしてそれと共に、私の今までの大切な思い出や幸せは、税があつたから、支えてくれているから、成り立っていたということに改めて実感した。そういえば、私が冒頭で書いた思い出の場所や出来事すべてに税が関わっていた。前までは当り前のことだと思っていたけれど、そうではなくすべての人たちのおかげであるということ、本当の意味で知ったのは、つい二三年前のことだったように思う。

めに、「当り前」をこれからも支えていくために、税を納めていきたいと思う。しかし、それを支えていくのが困難になっていくかもしれない。少子高齢化問題があるからである。もちろん、それ以外の問題もあるだろうが、一番の問題はこれだと思う。資料を見ると、高齢化社会がこのまま続いていくと、二〇二〇年には約二人で一人のお年寄りを、二〇五〇年には、なんと約一人で一人のお年寄りを支えるようになると思われ、これはあまりにも負担が大きすぎて支えきれなくなってしまう。多分、その対策の一つとして打ち出されたのが、増税だと思う。そして実際に実施されることになっている。でも、今のままでも、生活が苦しいという人は少なくない。日本にいる人たちがすべてが安心して暮らせる世の中にするための最善策を見い出さず、税への関心を深め、どうするべきかを、みんな考えていくべきだと思う。

※この作文は、本人の意見を尊重するため原文のまま掲載しています。



平成25年度の「税についての作文」優秀作品の表彰を受けた方は次のとおりです。

【小松島市長賞】

立江中学校3年

定國 茉奈

(敬称略)

【審査員特別賞】

小松島中学校2年

谷 幸音

坂野中学校3年

田中のぞみ

立江中学校3年

中村真悠